

平成25年度 事務事業評価調書（平成24年度実績分）

事務事業名	津波防災避難路整備事業				
所管部局	防災対策部	部局長名	下元 俊彦	予算事業名	○津波防災避難路等整備事業費
所管部署	地域防災推進課	所属長名	横山 成郎	予算事業科目(平成25年度)	010201150296

1 事業の位置付け

2011 高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け	
施策の大綱	05 まちの環
政策	28 安全安心の都市空間整備
施策	84 南海地震対策の推進

2 事業の根拠・性格

法律・政令・省令	災害対策基本法	法定受託事務	次の南海地震に備えて、被害予測を行い家庭における耐震対策を促進するとともに、津波からの避難対策、公共施設の耐震対策を推進します。 また、地震発生時の迅速な復旧活動や被災して生活が困難になった市民の救済のため、緊急輸送ルートの整備を進めます。
県条例・規則・要綱等	高知県みんなで備える防災総合補助金交付要綱		
市条例・規則・要綱等			
その他(計画、覚書等)	高知市地域防災計画、高知市南海地震対策中長期計画		
施策取組方針			

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	津波浸水想定区域内の高知市民	
意図	どのような状態にしていくのか	津波から命を守ることを目的とする。	
手段	事業実施体制等	津波避難ビルの指定	
		事業開始年度 平成21年度	
		事業終了年度	
活動内容	どのような事業活動を行うのか	高層階の既存ビルの所有者と協定を締結、津波避難ビルとして指定する。そして、津波避難ビル看板の設置やゴムポートや簡易トイレ等の資機材を配備することにより、地域の緊急避難場所としての整備を図る。	
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方
	A	指定数	津波避難ビルに指定した棟数を累計する
	B		
	C		

4 事業の実績等

			22年度	23年度	24年度	25年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	指定数	目標			200		
		実績	6	77	101			
	B	目標						
		実績						
	C	目標						
		実績						
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)		18,856	23,547	49,999		
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)		9,428	11,773	24,999	
			市債 (千円)					
			その他 (千円)					
			一般財源 (千円)	0	9,428	11,774	25,000	
	翌年度への繰越額 (千円)							
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	7,200	7,200	14,800	14,800		
		正規職員 (千円)	7,200	7,200	14,800	14,800		
		その他 (千円)						
		人役数 (人)	1.00	1.00	2.00	2.00		
		正規職員 (人)	1.00	1.00	2.00	2.00		
		その他 (人)						
総コスト= ① + ② (千円)		7,200	26,056	38,347	64,799			
市民1人当たりコスト (円)		21	77	113		総コスト/年度末人口		
年度末住民基本台帳人数 (人)		339,130	337,875	338,397				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

--

6 所属長評価

評価項目		評価基準	1次	平均点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	A	5.0	津波避難ビルは、自然地形の高台が近くにない地域における命を守るための緊急避難場所であることから、南海地震対策として総合計画、実施計画の目標達成に結びつく。
	② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない	A		
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	C	3.0	民間ビル指定を促進しているが、分譲マンションの指定が困難な状況である。
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である	A		
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	A	5.0	津波避難ビル指定の協定手続きは行政が主体となっていくが、地域の自主防災組織等が事前に交渉し、緊急時の使用承諾を得ることはできるため、地域と連携を図る取り組みを進めている。
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である	A		
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	A	5.0	津波浸水想定区域内の不特定多数が対象であり、偏りはなく公平である。
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである	A		
総合点	18.0	総合評価	<input checked="" type="radio"/> A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) <input type="radio"/> B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) <input type="radio"/> C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) <input type="radio"/> D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合)		

7 部局長評価

総合評価	評価理由・今後の方向性等
<input checked="" type="radio"/> A 事業継続	自然地形の高台等がない津波避難困難地域の解消には不可欠な避難空間であるため、引き続き積極的な指定を進めていく。
<input type="radio"/> B 経費削減に努め事業継続	
<input type="radio"/> C 事業縮小・再構築の検討	
<input type="radio"/> D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

(行政改革推進委員会 平成25年8月26日) ・津波避難ビルとして正式に指定するということは(高知市が指定するためには構造的要件等様々な基準を満たす必要があり)難しいかもしれないが、自治会等で(自主的に)地域のビルの家主と協議し、大災害時に避難することの了解を得ている事例もある。 (9月市議会定例会総務常任委員会 平成25年9月24日) ・実効性を高めるために、倉庫などを設置する場合は、固定のための費用など安全性を補完できるメニューを考えたら良いと思う。
--